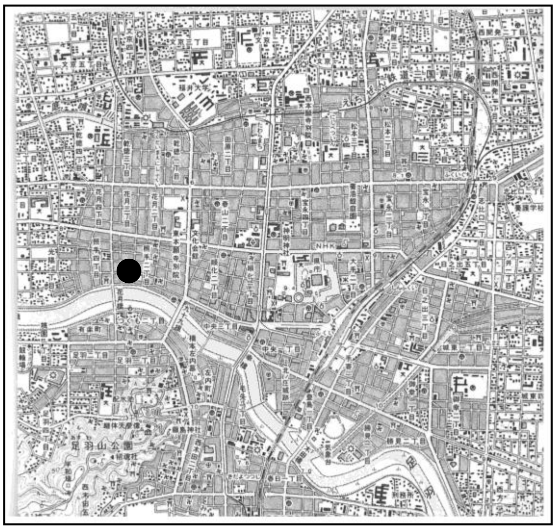
10. 照手遺跡（てるていせき）

所 在 地：福井市照手３丁目
調査原因：三秀園跡地利活用事業に伴う確認調査
調査期間：平成 28 年 9 月 16 日～21 日
調査主体：福井市教育委員会事務局文化財保護課
調査面積：計 24 ㎡
時　　代：平安時代・近世



位置図（S＝1/50,000）

調査の概要　調査地は福井藩家老松平主馬の別邸である三秀園の跡地として知られている場所です。『数奇屋住宅聚成 16』に建物や庭園を配した平面図や写真が記録されていますが、これまで調査はされておらず、遺構の残存状況などは不明でした。三秀プール跡地の利用計画策定にあたって遺構の確認を目的に、池や園路と考えられる箇所で調査を行いました。

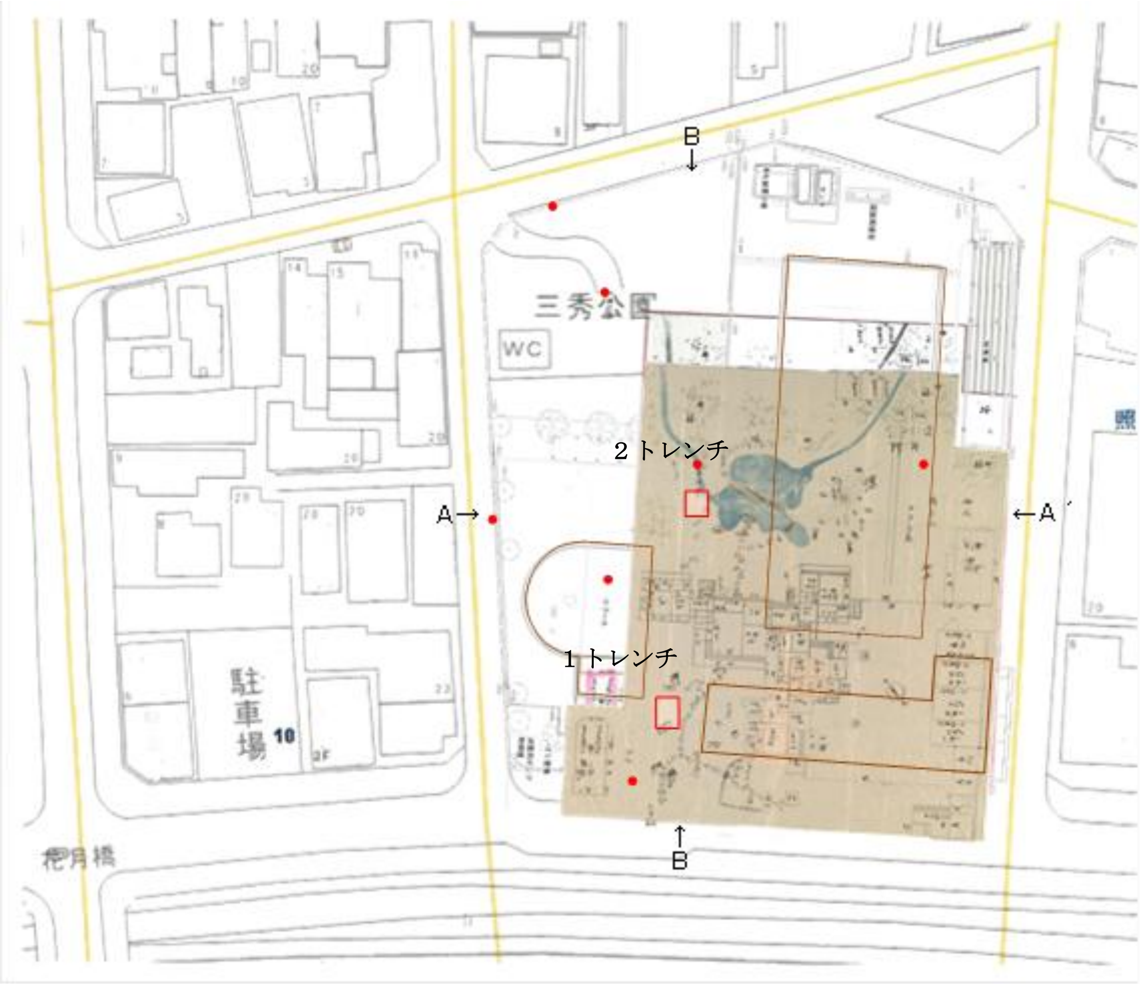
遺　構　１・２の二つのトレンチを設定し、うち２トレンチで石組み水路を確認しました。三秀園の古図には、池から北西に延びる水路が描かれており、検出状況から池との接続部付近に該当すると考えられます。

写真１　２トレンチ掘削状況（北西から）

三秀園の遺構面は現地表から約 50cm 下がったところで確認しました。１・２ トレンチを通して土層は残っていますが、子ども用プール・大人用プール、埋設管、管理棟、ポンプ場などの地下工事が遺構面に達しており、三秀園が残存する範囲は少ないと考えられます。

また、現地表から約 170cm 下がったところで律令期の遺物包含層を確認しました。福井城周辺では、これまで柴田公園や本町通り地下駐車場で、この時期の遺構を確認しています。足羽川右岸沿いに律令期の遺跡が展開している可能性があります。

まとめ　今回の調査により、対象地では三秀園の痕跡が今もなお残っている事が確認できました。（山場愛弓）



第１図　調査地位置図

写真２　石組み水路検出状況（南から）

写真３　土層堆積状況（南から）